

2007年度 第2回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>

開催日時：2007年5月8日(火) 午後7時15分～9時15分
開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室
出席委員：阿部靖子、飯塚 睦、熊田博喜、坂口和隆、瀧島喜重、安岡厚子
柳澤正樹、渡辺美恵<以上8名、敬称略、あいうえお順>
欠席委員：山下恭子<以上1名、敬称略>
事務局：齊藤 睦(地域福祉課長)、中澤一郎(主事)、今林朝香(コーディネーター)
平田典子(コーディネーター)、丸木 敦(係長)

配布資料

資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(4月)
資料 2：コーディネート状況等月次報告
資料 3：西東京ボランティア・市民活動センター予定表(5月)
資料 4：2006年度第9回災害時のシステムづくり専門委員会会議録<確定稿>
資料 5：2007年度第1回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<未定稿>
資料 6：2006年度西東京ボランティア・市民活動センター事業報告(案)
資料 7：2006年度西東京ボランティア・市民活動センター決算報告(案)
資料 8：ボランティアセンターニュース(仮称)発行(案)
追加資料：田無国際交流サークルについての学習会に関する資料
追加資料：西東京市社会福祉協議会平成19年度事業計画及び資金収支予算書
追加資料：西東京市社会福祉協議会平成19年度事業計画 ~ 部署別 ~
追加資料：キラキラ西東京「号外を配ろう」チラシ

委員長：1名、遅れて出席の連絡があるが、時間なので第2回運営委員会を始める。最初に追加資料があるので事務局から説明してほしい。

事務局：前回委員会で委員長から、西東京市社会福祉協議会の平成19年度事業計画、予算を閲覧できるのではないかとのことだったが、事業計画書、予算書が印刷製本されたので配布した。また、キラキラ西東京という団体が地球温暖化防止に取り組もうという趣旨で、そのこと意識を高めるためのチラシを西東京市内の全戸に配布しようとしている。全戸配布するための協力者を募っているので、運営委員の皆さんにも協力していただけないかと協力者募集のためのチラシをお配りした。

委員：今日、配られたチラシを全戸配布するのか。

事務局：今日配布したチラシは配布協力者を募るためのもので、全戸配布するチラシは別のものになる。

委員長：全戸配布するチラシはいつ頃できるのか。

事務局：次回の運営委員会にはお渡しできるのではないかと思います。

委員長：では、報告事項を行う。

1. 報告事項

(1) 西東京ボランティア・市民活動センター業務報告

4月期の業務報告

事務局より、資料1に基づき4月期に行われた主な事業についての業務報告が行われた。

委員長：事業の報告があったが質問はあるか。都立高校の奉仕活動義務化に伴う相談は田無工業高校からきているのか。

事務局：今のところ武蔵高校と田無工業高校の2校から具体的な相談がある。

他に質問、意見なく、4月期の業務報告を終了する。

4月期のコーディネート状況報告

委員長：では続いてコーディネート状況の報告にうつりたい。

事務局より、資料2に基づき4月期のコーディネート状況の報告が行われた。

質問、意見なく、4月期のコーディネート状況の報告を終了する。

5月の業務予定

委員長：続いて、5月の事業予定の説明をしてほしい。

事務局より、資料3に基づき5月期の業務予定の説明がある。

委員長：わんぱく相撲に参加するということだが、どのような形で参加するのか。

事務局：わたあめの販売とチラシの配布によりボランティア・市民活動センターの財源づくりとPRを行いたいと考えている。

委員：わたあめは、有料とするのか。

事務局：そのように考えている。

委員長：わんぱく相撲の優勝者に賞品を出してはどうか。

委員：都筑区民活動センターから視察に来るとのことだが、どういうことで視察に来ることになったのか。

委員長：自分が神奈川県公設の活動センター職員研修の講師をした際に参加していたセンターの一つで、後に都筑区民活動センターの研修を依頼された。その打ち合わせのために会うことになったが、その時に西東京ボランティア・市民活動センターを見学したいということになった。

委員：軒下ふれあいバザーはいつ行うのか。

委員：6月10日(日)に実施する。

委員長：参加団体はどのようになっているか。

事務局：前回実施した時よりも1団体減っている。ボランティア・市民活動センターは、わたあめ販売とバザー品販売を行う予定にしている。

他に質問、意見なく、以上をもって5月期の業務予定の説明を終了する。

(2).災害時のシステムづくり専門委員会(以下、「災害専門委員会」と表記)報告

事務局より2006年度第9回災害時のシステムづくり専門委員会会議録を配布するとともに、2007年度第1回災害専門委員会での協議内容の報告が行われた。また、東京災害ボランティアネットワークが行う帰宅困難者の徒歩訓練のコースが西東京市を通ることに内定したことの報告がある。さらに、西東京市防災課職員に災害専門委員会委員を依頼する旨報告がある。

委員長：帰宅困難者徒歩訓練はいつ行われるのか。

事務局：10月7日と聞いているが、正式に決まったらお知らせしたい。

委員長：市防災課職員へ災害専門委員会の依頼を行うことについて、今日の運営委員会で承認する必

要があるか。

事務局：以前の運営委員会で2007年度の災害専門委員会のメンバーを協議していただいた際に、西東京市防災課にも選出依頼をするということの結論を出していただいているので今日は、手続きをしている旨の報告としたい。

他に質問、意見なく以上をもって災害専門委員会の報告を終了する。

2. 学 習 会

田無国際交流サークル(TIC)の活動について

【委員からの話】

田無国際交流サークルに入って15年経つ。私がなぜボランティア活動を続けられているのかを考えてみると、人との出会い、ふれあうことが好きだからではないかと思っている。活動を始めて16年目になるが、現在サークルでのボランティア数は35人くらい。一方日本語を学習する外国から来た人も同じくらいの数いる。昼間の学習者では日本人と結婚した女性、残留孤児の孫などが多くいる。夜間の学習者は、日本語学校生が多くいる。会社に勤めている研修生が日本語を勉強しに来ている。サークルにとって日本語を教えるということは活動目的のほんの一つだが、日本語教室がベースになり過ぎている。それは、外国から来た人が一番望んでいることが日本語を習うということなので、そういう傾向になっている。ボランティア活動をしたいという人には、定着することが難しいので一定のボランティア養成講座を受けてもらうことを条件にしている。1ヶ月間くらいの体験をしてもらい、その後に日本語ボランティア養成講習会を受けてもらうようにしている。最近のサークルメンバーの特徴は、リタイアした人が多くなっており、そういう人たちはお金を出して民間の日本語教師養成講習会を受けてきている。そのような人と手づくりの養成講習会を受けて活動を始めた人との間には意識のギャップがあるようだ。それをどうしたら取り除けるかが課題になっている。

毎年行っている新年パーティは大きな行事で70～80人くらいの参加者があるが、これについてもいろいろな考え方があり、最近はそのパーティを行うことが大変だからやめようという人と、もっとそういうことをしてサークルの存在をアピールしようという人がいる。今年は今までよりも縮小して実施したが、外国から来た人の中には、なぜ参加できないのかと問い合わせてきた人がいた。これについても考えなければいけないと思っている。

市内には日本語を教えているグループが7つあるが、他の同じくらいの規模の市と比較すると多いほうではないかと思う。複数のグループを掛け持ちしているボランティアもいるし、学習者の中にも複数のグループで日本語を勉強している人がいる。学習内容が重複し、効率よく学習の機会を提供する必要があり、7つのグループで連絡会をつくっているが、もっとグループ間で連携しなければいけないのに、と思うことが多々ある。市内には2800人くらいの外国人登録をしている人、70人くらいのボランティア、そして100人くらいの日本語学習者がいる。ボランティアが学習者の要望に十分応えているのかどうか疑問に思う。西東京市が直接、日本語ボランティア養成講座を実施してボランティアの数は増えたが、一つひとつのサークル、ボランティア同士がもっと連携できないものかと思っている。

【質問・意見交換】

委員：活動を始めたきっかけは何か。

発表者：15年くらい前に谷戸公民館が行った「市民レベルで考える国際交流」講座を受けた人たちが集まって活動を始めていた。私はその当時、日本語教室の教師として働いていたが、公民館の講座を受けて活動をしていた人たちと自分の思いが一致した。だから一緒に活動するようになった。

委員：学生の中には日本語を教えたいという人が多いが長続きしない。長続きさせるためにどのようなことが必要なのだろうか。教えてほしい。

発表者：ボランティア活動をライフワーク、ライフスタイルに組み入れている。そうしないと続かないと思う。仕事を優先するのか、ボランティア活動を優先するのかということだと思う。サークルにはたくさんの学生も活動しに来たが、アルバイトが忙しくてやめていく学生が多か

った。

委員：勉強をしたいと思う人はいつでもボランティアグループに参加できるのか。

発表者：どのグループでもいつでも参加できるようになっていると思う。

委員：日本語を学ぼうとする時にどのくらいの期間勉強するものなのか。

発表者：人によってはすぐに覚えて学習をやめていく人もいる。会社などで雇う側は、日本語がわからなくても黙って働く外国人が好まれる傾向があるようだ。

委員：社内にも外国から来た人がいるが仕事の性格からある程度は話せないと難しい。

発表者：人によっては自分の望む仕事に就きたいと、仕事をしながら日本語の勉強を続けている人もいる。

委員：文化的な交流を望むよりも日本語を話せるようになりたいという人が多いのだろうか。

発表者：そうなのだと思う。また、自国の情報を得ることを目的に日本語学習会に参加してくる人もいる。

委員長：サークルでは、日本語を教えること以外に生活上の相談を受けたりしているのか。

発表者：育児、姑のことなどの相談をされることがある。そういうことから女性のボランティアが好まれるようだ。

委員：外国から来た人から精神的なケアを求められて困ったことはあるか。

発表者：法律などの専門相談を東京都が地域を巡回して実施しているので、対応しきれない相談の場合はそのような専門相談を紹介したりしている。また、プライベートな部分にはあまり踏み込まないということを原則にしているが、実際に相談があれば真摯に受け止めることにしている。解決できることとできないことをはっきりさせるようにしている。

委員長：ありがとうございました。このへんで学習会を終了して審議事項にうつりたい。

3. 審 議 事 項

(1). 2007年度第1回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録について

資料5により、第1回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録の確認を行う。

委員長：何か修正等はあるか。資料10ページ29行目、「そういう人たちへのフォローを～」を「そういう人たちへのフォローを～」に訂正するように。

他に修正、削除、追加等の意見なく、第1回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（未定稿）を1箇所修正し、確定稿とすることを承認した。

(2). 2006年度事業報告（案）について

事務局より、資料6に基づき、2006年度の実業報告（案）の説明がある。

< 事業報告項目 2. 災害に備えた取り組みの審議 >

委員：5月の連休中にどこかの団体が行っていた歩け運動のようなものを利用して災害に係する箇所をみてまわるのはどうか。オリエンテーリング形式でクイズに答えながらいろいろなところをまわるのもよい。他の団体が行うイベントを利用してはどうか。

委員長：災害に関する事業を行う時に、特定層だけを対象とするのではなく、もっと幅広い層が参加できるような工夫が必要なのではないか。講演会をアスタでやってはどうか。

委員：小さい子どものいる親へのPRも必要ではないか。ピッコロハウスなどに来ている人たちにも参加を働きかけてはどうか。

< 事業報告項目 3. 講習会・学習会の審議 >

委員：参加費が講座によって異なるが何か基準はあるのか。

事務局：講師に支払う金額によって参加費の額を決めている。

委員：もう少し高い参加費でも人が集まるようなプログラムの内容を考える必要があるのではない

か。

委員：この事業報告を運営委員会で検討してどうするのか。

委員長：理事会に提出するための手続きとして必要な審議である。すでに行ったことなので、事実関係は省略してそれぞれの事業の成果と課題を中心に議論したい。行った事業を踏まえての改善点などの意見を出してほしい。

<事業報告項目 6 . ボランティア活動・市民活動の相談・コーディネート状況の審議>

委員長：登録者数の目標値を入れるように。

事務局：そのようにする。

事業報告資料中1、4、5、7、8、9、10の項目について意見、質問は無く、2006年度の事業報告(案)全体について異議無く承認された。

(3). 2006年度決算(案)について

事務局より、資料7に基づき、2006年度の決算(案)の説明がある。

委員長：事務局から決算の報告があったが、意見、質問はあるか。昨年度より自己財源が50%アップしているが、これからも努力が必要だ。

異議無く、2006年度決算(案)について承認された。

委員長：今日は時間が無くなってしまったので、ボランティアセンターニュースの発行についてと事業の見直しは次回に検討したい。ボランティアセンターニュースの検討は次回の運営委員会でも間に合うか。

事務局：次回の検討でも間に合う。

委員長：事業の見直しがなかなか時間が無くて今まで検討できなかったのが、次回運営委員会では審議事項の一番目にしてほしい。では、今日はこれで終了する。

以上をもって、2007年度第2回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議を終了し、散会する。